

「茶旅」

”こぼればなし”

(29) インドは緑茶ブームだが

コラムニスト 須賀 努



ティーバッグだった。

いささか衝撃の話になってしまったが、ドクターによれば、『インドの喫茶習慣はイギリス時代の僅か150〜160年前に始まったばかりで、数千年の歴史を持つアールベータには茶の記述はない』という。ではなぜ紅茶は良くないのか、と突っ込むと、『現代のインド人はチャイの飲み過ぎであり、加工された砂糖とミルクを大量に体に入れて』と指摘。更にインドでは『発酵食品は腐った物』という認識もあるようで、酸化が進んだ紅茶が何等か体に影響する、という意味合いで捉えている可能性もある。インドで緑茶が飲まれ始めて、まだ数年だからだろうか。

ただドクターの息子と話していると、『俺は抹茶を飲んでる』という。その理由は『健康に良い物を丸ごと吸収できるから』であり、いかに現代風に、抹茶と茶碗、茶筌をネットで購入したらしい。『淹れ方もネット

を得た。インドの伝統医学であるアユルベータクリニックに10日ほど滞在し、いわゆるデトックスを行い、心身ともにリフレッシュした。その中でドクターから日常生活の過ごし方や食事のとり方について、説明を受けたが、何と『紅茶はできれば飲まない方がよい。飲むなら1日1〜2杯が限度』と言われて、驚いてしまった。また『食後すぐに茶を飲むのは消化を妨げる』とも、『では何を飲めばよいのか』と聞くと、白湯がベスト、温かいフレッシュミルクもよいと。そして『紅茶より緑茶の方がまだよい』と言われ、啞然とした。結局クリニックで出されたのは、基本的にハーブティーか、グリーンティー+ミンツの

数年前に『インド人が紅茶を飲み始めた』というコラムを書いた。そんな馬鹿な、紅茶と言えばインドだろう、などというお叱りを幾つも賜ったことを覚えている。だがその言葉は私が言ったのではなく、ダージリンの有名な茶園のオーナーが言ったのだ、と2015年3月号で釈明している。参考して欲しい。また同時にそのコラムの中で、インドの南部ムナルの茶葉博物館の研究員が『インドはこれから緑茶の時代だから、ぜひ日本の煎茶の製造方法を教えて欲しい』と言われたことも合わせて書いている。だがその後そんなことはすっかり忘れていた。そして今回3年ぶりに訪ねる機会



グリーンティーで溢れるインドのスーパー

ト上さ』とこともなげに言う。『沖繩が長寿だったのは既に過去であり、ましてや煎茶が日常的に飲まれているとは聞いたことがない』と切り返すと、彼の方が心底驚いた、という表情になった。そして『日本は福島問題同様きちんとした情報を少なくとも英語で流すべきではないか』と主張してきた。日本茶を海外に輸出する、という

のではあれば、政府を中心に日本茶の歴史から現状、そしてお茶の作り方から淹れ方まで、きちんと外国語で、外国人に分りやすく、広報すべきだ。どうやら長寿の島日本と煎茶が単独で結びついている。勿論平均寿命が世界有数の日本人、確かに煎茶などを飲んできたから健康だ、という面もあるかもしれない。そうであるならば、煎茶を飲む人が減ったときりに言われている昨今、平均寿命もすでに下降しているのだろうか。『お茶は健康に良い』というのは、あくまで一つの言い方、現代のお茶は薬ではなく、

嗜好品だと言いたい。因みにお茶関係者で90歳、100歳という方にお目に掛かると『様に肌がきれいだと感じるのは、長年良いお茶を飲み続けているからだろう。決して数か月で効果があるという話ではない。』

今回インドのスーパーへ行くと、3年前は紅茶のティーバッグが並んでいた棚が、見事にグリーンティー一色に替わっていた。その値段も紅茶の3倍になっている。リップトンやトワイニングなどが、こそって『グリーンティーを飲む』と宣伝しているのはインドの所得向上に伴うビジネスチャンスと思われる。インド人の間にも緑茶が健康に良い、との認識が定着しつつある。もし日本が本気で世界市場に打って出るつもりなら、今は好機なのではないか。ただその場合、日本緑茶の効能をしっかりと説明した上で、高価格帯で勝負する道があると思うのだが、果たしてどうだろうか。

(すが つとむ)